予算委員会　佐藤まさゆき　討論内容

日本共産党は、第1号、2号、12号、57号の4件に反対。残余の31件に賛成。以下その理由を述べます。

**【1】安倍政権のくらし破壊の暴走から、くらしを守る「防波堤」としての役割が不十分**

世論に押されて子どもの医療費の窓口無料に道を開き、県水の責任水量制の見直しはしたものの、消費税増税と円安誘導による物価高が、くらしと地域経済を直撃しているもとで、安倍政権の社会保障大削減、くらし圧迫の悪政から、住民を守る「防波堤」としての本来の役割を果たすにはきわめて不十分な予算であることが反対する第1の理由です。

介護保険料の値上げ中止、国保料の引き下げへの市町への援助はなく、返済不要の学生向け奨学金制度や、小中学全学年での30人学級実現へ、正規職員を増やす予算も組まれませんでした。

保育料第3子無料などの子育て支援も国費であり、破たんしたアベノミクスと「地方創生」関連予算にとびつき追随する、バラマキ予算と言わなければなりません。

第1号平成26年度補正予算の、国の交付金による、総額2億円にのぼる新規航空需要定着促進事業費補助金、3億7千万円のいしかわふるさと旅行促進事業費などは、その規模などの見直しなどで、当初含めた予算全体を組み替え、福祉灯油や、子どもの医療費の窓口無料化による国保分の国からのペナルティ1億円余への支援、米価暴落対策などを計上すべきではなかったでしょうか。

**【2】税金の使い方がまちがっている**

こうした、くらし応援、教育充実の予算は、「投資的経費を全国中位とする」方向に踏み出せばねん出できますが、その姿勢すらなく、不要不急の大型開発の歳出構造が温存されたことが、第2の反対する理由です。

白山スーパー林道の名称を変えて利活用を促しているにも関わらず、まだ白山トンネルに固執して調査費450万円を計上。

手取川架橋の本格着手、第57号補正予算も北陸新幹線金沢以西延伸を前提にした、IRいしかわ鉄道資産取得に41億円の積み立てを計上する予算となったことは容認できません。

事実上、コマツ1社を優遇する金沢港大浜大水深岸壁を進める第12号港湾整備特別会計にも反対いたします。

県自身も経済効果を認める住宅リフォーム助成制度を拒否したことは、地域循環型対策も極めて不十分と言わざるをえません。

**【3】原発再稼働前提の予算**

第3の理由は、安倍政権の暴走を容認したままの、国任まかせの原発防災安全対策であり、原発依存であるがゆえの再生可能エネルギー導入に本腰が入っていない予算になっていることです。

平成26年補正、27年当初とあわせ原発安全防災費の総額7億1千万円余のうち、県費はわずか450万円余。第57号補正予算にある、原発マネーともいうべき電力移出県等交付金7億2千万余は、各種運営費に充当されることも適当ではありません。再生可能エネルギーの導入目標すらもたない姿勢は、原発再稼働前提だからだと厳しく指摘しなければなりません。

以上反対する理由を述べ、討論とします。